

## エチオピア地下足袋をめぐる協奏の実践的研究

名前：田中利和

所属：東北大学

専門分野・キーワード：地域研究・人類学・エチオタビ

自己紹介：エチオピアの人びとと今をよりよくともに  
生きぬくための業を研究している。フィールドに足をつき  
耕し、協奏をつうじてあらたな世界を協創する。



日本の発明品である地下足袋をエチオピアで協創【＝エチオタビ】する旅のなかで、安価で高品質の素材(羊革など)とアフリカ独自の優れたデザインで、人類の足に優しく、健康を計る機能を有す【エチオタビセンシング】を着想した。このテーマをめぐり専門家が実践的に協奏することで、有機的に調和し、あらたな形で持続的な地下足袋文化と学際研究が創造されていくというのが本研究の仮説である。そのために地下足袋文化が芽吹くエチオピア中央高原ウォリソを検証のフィールドワークの場とし、エチオタビセンシングにまつわる 1. くむ 2. はかる 3. わかる 4. ひびく 5. うる、をテーマとした実践的な調査をする。本事例研究の成果をふまえ、多様な専門や価値を編みこむことによって創生される学際研究の意義、醍醐味、機能をあきらかしていくことも本協奏研究の目的である。

図 1. は、東北大学を中心とするエチオタビセンシング研究組織で、各専門分野の役割と相互作用的發展のイメージである。1. 田中：【地域研究・文化人類学】はエチオピアにおける牛耕研究を通じて、作業時の地下足袋の有用性を見出した。その後地下足袋協創の地域研究を開始し、センシングを専門とする 2. 甲斐：【工学・ウェアブルデバイス】、と医療データ・経営分析を専門とする 5. 井上：【公衆衛生学・経営学】の 3 人で、エチオタビセンシングの開発・普及に関する研究を開始した。現在は人間の運動機能分析を専門とする 3. 伊藤：【医学・運動機能解析】の参加によって、センシングで測るデータを健康情報として医学の側面から解釈可能となった。エチオタビセンシングの意義や価値の深化・多様化という点では、美術家の 4. 是恒：【芸術・デザイン工学】の加入によって、表現可能性を拡張する。5. 井上が Duke University (MBA 課程に所属) に留学中のため、アメリカからあらたな健康履物の世界との共有という考察が可能となる。エチオタビセンシングというテーマをめぐり、5 人のメンバーが対話と協働の実践を通じて相互連関的に各専門がブレンドされ、あらたな要素を互いに取り入れることで、ともに発展していける構成である。

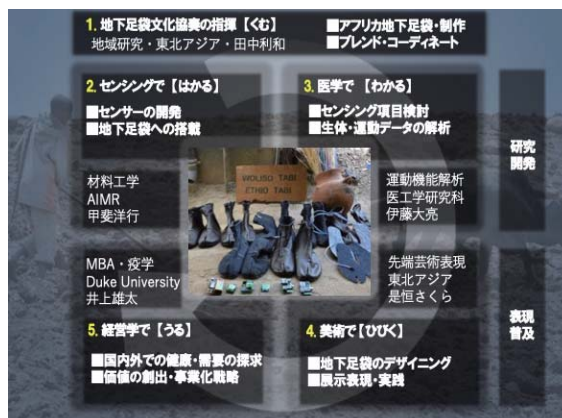


図 1. 研究体制と相互連関